**第24章　災害及び事故**

　昭和62年における府下の水稲被害の概況は、被害面積8510ha、被害量4650 t 、被害率12.1％で、前年に比べ被害面積で200ha （2.3％）減少したものの、被害量で1030 t （28.5％）の増加となった。  
　種類別にみると、病害及びその他被害は減少したものの、気象被害及び虫害は増加した。特に、前年大きく減少した気象被害が、被害面積で5.8倍、被害量で5.1倍と著しく増加した。

**労働災害**

　昭和62年における府下の労働災害による死傷者数は、死者が143人、負傷者（休業４日以上）が２万1008人、合わせて２万1151人で、前年に比べ死者は微増したものの、負傷者は引き続き減少した。  
　産業別にみると、製造業が7996人で全体の37.8％を占め最も多く、以下、建設業4729人（構成比22.4％）、陸上貨物取扱業2222人（同10.5％）の順となっている。最も多い製造業の中では、金属精錬業・金属工業が3528人と大きな割合を占めている。

**火災**

　昭和62年における府下の火災件数は4428件（前年比6.3％減）、損害額は104億5277万円（同S.6％増）、死傷者は840人（同11.1％増）であった。  
　月別では４月が445件（構成比10.0％）と最も多く、最も少ない11月の305件の1.5倍となった。  
　地域別では、火災件数全体の33.4％を占める大阪市地域が前年より127件（7.9％）減少の1477件となったほか、三島地域、北河内地域、中河内地域、泉北地域、泉南地域で減少し、府下の火災件数の減少に寄与した。  
　発火源別にみると、「たばこ・マッチ」が1477件と前年に比べ167件（10.2％）減少したものの、依然最も多く全体の33.4％を占めている。次いで、「都市・プロパンガス関係」が66件（6.6％）減少の928件で続いている。  
　昭和62年度における府下の防火対象物は、30棟（前年比0.0％）減少の19万4763棟となり、わずかながら減少した。

**交通事故**

　昭和62年における府下の交通事故発生件数は、５万128件（前年比2.4％増）で、死者434人（同5.9％減）、負傷者６万1620人（同2.3％増）となった。死者については再び減少したものの、負傷者は引き続き増加した。  
　事故発生の主原因者となった第一当事者別では、車両関係４万8827件、歩行者1301件、不明1353件となっている。  
　このうち車両関係を車種別にみると、普通乗用車が２万1991件と45.0％を占め、以下、軽貨物自動車6341件（構成比13.0％）、普通貨物自動車6014件（同12.3％）、原付（50cc以下）4353件（同8.9％）、自転車2603件（同5.3％）の順となっている。又、法令違反別にみると、前方不注意9699件（構成比19.9％）、安全不確認3960件（8.1％）、指定場所一時不停止等3839件（同7.9%）の順となっている。  
　一方、歩行者関係の事故件数は、第一当事者及び第二当事者合わせて6900件で、死者123人、負傷者7152人となっており、横断中の事故が4775件と全体の69.2%を占めている。  
　なお、全国の交通事故発生件数は、59万723件（前年比2.0％増）であり、都道府県別でみると、大阪府の５万128件（構成比8.5％）が最も多く、以下、東京都４万1010件（同6.9％）、神奈川県３万3112件（同5.6％）の順となっている。